

オキュペイショナルハイジニストによる名古屋大学での安全衛生管理 について

○松浪有高、後藤光裕

工学系技術支援室 環境安全技術系

概要

オキュペイショナルハイジニストとは、職場での化学的、物理的、生物学的に有害な作用因子を特定し、健康上のばく露リスクの程度を評価し、管理するために必要な技術的支援を行い、リスクアセスメント・リスクマネジメントを実施する者のことである。欧米では一般的な専門職であるが、日本ではまだ根付いていない。今後名古屋大学での安全衛生管理を発展させるには、このようなシステムを習得する必要があるため、育成のための教育プログラム、専門研修会の一部に参加し、情報収集、調査を行った。これらを基に名古屋大学への適用の可能性について検討を行う。

1 オキュペイショナルハイジニスト認定制度と経緯¹⁾

1.1 養成講座

養成講習会としては、日本作業環境測定協会で開催されているのが、日本で唯一の養成講座である。カリキュラムを表1に示す。認定オキュペイショナルハイジニストになるためには、協会が開催する全12コース、総合計93時間の講習を受講・履修するとともに、総合評価試験に合格する必要がある。各コースの時間数は表1の通りであるが、評価試験は、多肢選択式70問と記述式3問で、5時間30分にもおよぶ難関な試験であり、現在日本では、17名しか認定されていない(H25.4.1現在)。

表1 各コースのタイトルとその時間数

コース	時間 (1時間=1単位)
1 化学物質等の規制、管理の内外の動向に関する知識	6時間
2 労働環境のリスク評価・リスクとばく露管理	12時間
3 労働環境のハザード評価	18時間
4 物理的有害因子のリスク管理	14時間
5 生物的有害因子のリスク管理	3時間
6 一般環境のハザード・リスク評価、リスク管理	5時間
7 労働衛生工学概論	10時間
8 環境管理の工学的対策(作業環境、一般環境)	5時間
9 労働衛生学及び人間工学的課題	10時間(人間工学4時間)
10 公衆衛生概論	3時間
11 疫学調査	3時間
12 リスクコミュニケーション	4時間
	合計 93時間

1.2 認定制度発足経緯

平成18年、厚生労働省は、事業者が行う自律的なリスクアセスメント及びリスクマネジメントについて、法改正を行うと伴に化学物質、機械の包括的な安全基準に関する指針を示した²⁾。これにより事業者が事業場の実態に応じたリスク管理等を実施するには、適切な技術的支援を行うことができる専門家(オキュペイショナルハイジニスト：産業保健衛生士)や高度な労働安全衛生管理をする者が必要となった。これらを行う者として、有害作業に関する部分での作業環境測定士の役割、知識を最大限活用できる可能性のあることから、第1種作業環境測定士の者へ専門研修を実施・育成することが、人材を短期的に養成でき、有効に活用できると考えられている。そのための認定制度が検討され、現在これを基に講習会・評価試験（認定オキュペイショナルハイジニスト養成講座）が行われている。また現在、IOHA(International Occupational Hygiene Association)への認定申請作業により世界共通資格化へ手続きが進められている。

2 名古屋大学への適用

名古屋大学における安全衛生管理は、平成16年の独立行政法人化を受け、まずもって法令遵守すべく、衛生管理者の育成・選任、産業医の選任、必要資格者の養成を行うなど積極的に行い、初期の目的を達成した。作業環境測定についても全学的な取り組み、適切管理ができる体制等を整えつつある。

今後は、まず平成18年に改正されたリスクアセスメントの実施についての取り組みを行っていかなくてはならない。リスクアセスメント手法は多様な方法があるため、大学の研究室にどの方法にて行うのが最適かなども検討していかなくてはならない。いくつかの方法を試行として実施していただき、確認、検証が必要であろう。研究の種類、規模の違いにより、インフラも含めた大小規模の改善、改修が必要であったり、日々変化する研究内容への対応をどうするのか、実施できないときの対案の検討・提示は行えるのか等、直接・間接的なバックアップ体制の構築等の想定も必要であろう。そして、これらの問題が全て解決されないと導入できない、という事ではいつまで経っても前に進めない状況にもなり得る。

何のためにシステムを導入するのであるのか・・・「快適な職場環境の形成」「職場における安全と健康(衛生)の確保」という本来の目的を達成するためには、横並びで実施できない場合はなおさら、同時多発的に始め、段階を経て、それぞれでのある程度のレベルを確保する事が必要であろう。そのためには、実験実施における新規・継続安全教育、新規採用職員のための安全衛生教育、高圧ガス安全講習等の各種安全・衛生教育実施時及び年度当初の安全・厚生委員会においてリスクアセスメントについての理解を深めてもらうことや、化学物質管理システム(MaCS)使用時での案内、実験系廃棄排出時や衛生管理者による巡視、作業環境測定士の立ち入りの際に意見交換を行うこと等、いろいろな方向からの情報提供、試行による下地づくりが必要であろう。この下地があって始めて次の段階となる、リスクアセスメントによる安全衛生状態の確認という上積みができる。これらを後押し、下支えするため、作業環境管理・作業管理のスペシャリストとして研究室に存在するリスクを工学的見地から適切に判断し、産業医や教員への助言、また関係者への教育・相談・助言ができる専門家・・・オキュペイショナルハイジニストの養成は、これからの名古屋大学で必要となる人材である。

3 まとめ

これからも名古屋大学での研究活動においては、適切な安全、健康を確保し続けなくてはならない。法律や周りの環境の変化に適切に対応し、この状態を継続的に達成し続けるためには、構成員の協力とともに専門的に携わる人員確保が不可欠であるといえる。

4 参考文献

- 1) 日本作業環境測定協会 認定オキュペイショナルハイジニスト養成講座
- 2) 労働安全のしおり 平成 25 年度版

5 謝辞

今回、「全学技術センター 平成 25 年度技術研鑽プログラム経費」をご交付いただき、「認定オキュペイショナルハイジニスト養成講座」を受講させていただく機会を与えてくださいました 全学技術センター 藤井先生、全学技術センター技術部長 松村先生、工学系技術支援室熊澤室長、環境安全系釣田課長および全学技術センターの関係の方々への感謝をここに記してお礼申し上げさせていただきます。有難うございました。